

「腎不全を生きる 2009 vol139」 日本腎臓財団

(各階のロビーに配置されています。)

患者さん向けに易しく分かりやすく書かれています。もう一度初心に戻って読まれてはいかがですか。自分の知識、行動の再確認、患者さんへの教育、透析現場での自分と当施設のポジショニングを考えるように手頃な小冊子です。

内容は、透析室スタッフから患者さんへの提言として自己健康管理とシャント管理、易しい腎臓病学入門として“うつ”との付き合い方、元気で長生きの秘訣。

全国で 187 人 (0.056%) が行っておられる在宅血液透析の経験談、私も 30 数年前済生会八幡総合病院で 3 名の導入、管理をしていました。開業の動機のひとつが家庭透析で、始めた頃の透析器は全て個人機でした。懐かしくもありますが、是非目を通してください。

1988 年 (はまゆう会設立頃) 大変苦勞して規定された臨床工学技士法、日常の中でのその役割、患者さんや他部門との信頼関係、透析技術認定士から血液浄化専門臨床工学技士資格、除水 BV ナビゲーションシステムなど、座談会形式で昔を楽しく読ませて頂きました。

2009. 4. 4

理事長 市丸 喜一郎